

## 令和2年度愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会会議録（概要）

会 議 名	令和2年度第2回愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会
開 催 日 時	令和3年2月4日（木）午後2時から午後3時30分まで
開 催 場 所	市役所災害対策本部兼会議室
出 席 者	別紙のとおり
欠 席 者	なし
協 議 事 項 等	<p>●協議事項</p> <p>(1) 令和2年度事業実績及び令和3年度事業計画（案）について</p> <p>(2) 意見交換「親支援を考える」</p>
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍 聴 人 の 数	0人
会 議 資 料	<p>次第</p> <p>愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会委員名簿</p> <p>資料番号1 令和2年度事業実績及び令和3年度事業計画</p> <p>資料番号2 意見交換テーマ「親支援を考える」</p>
審 議 経 過	別紙のとおり

令和2年度愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会委員

役職名	氏名	備考
会長	谷本 紅美	
副会長	白石 淑江	
委員	長谷川修三	
〃	原口 浩美	
〃	小川 晴美	代理 田中
〃	水谷 紀子	
〃	原田 大栄	
〃	加藤紀佳子	
〃	加藤美智子	
〃	堀田 真吾	
〃	大江千恵子	
〃	尾崎 和美	

事務局

職 及 び 役 職		氏 名	
健康子ども部	部長	小林 徹男	
	子育て支援課	課長	長谷川 努
		主査	堀田紫津子
	健康推進課	課長補佐	中井久美子
		主査	神田 真愛
保険福祉部	参事	兼子 利雄	
教育部	学校教育課	主幹	稲垣 潤一
子育て世代包括支援センター 母子コーディネーター			
健康子ども部	子育て支援課	保健師	検校 規世
		保育士	岩間 竹子
	健康推進課	保健師	伊神 敬子
		保健師	鬼頭 葉子

## 審議経過

発言者	内容（概要）
会長	1. 会長あいさつ
会長	2. 協議事項 協議事項（1）「令和2年度事業実績及び令和3年度事業計画（案）について」、事務局からお願いします。
事務局	（1）「令和2年度事業実績及び令和3年度事業計画（案）について事務局より、12月までの実績について資料番号1に基づき説明
会長	事務局の説明について、ご質問・ご意見ありますか。
委員	巡回相談件数が今年度は伸びていますが、内容にコロナ禍によるもの、特異的なものはありましたか。巡回相談を含めすべての相談においてどうですか。
事務局	コロナによるものというよりは、一般的な発育発達の問題や離乳食、しつけ、トイレトレーニングなど身近な相談がありました。
委員	他市で、妊娠届出時に経済的な困難を訴える家庭が増えていると聞きましたが、愛西市ではどうですか。
事務局	妊娠届出書のアンケート項目において、「経済的に困っている」と回答する方の率は増加していません。話を聞くと、「子どもが生まれるからお金がかかる」や「どれくらいかかるか分からないので不安」という漠然な思いがあり回答している方が多い現状です。生活困窮でお困りの方には、保健師や子育て支援課の支援員に繋ぎ支援している状況です。 子育て支援課では、ひとり親給付金制度の給付、母子・父子自立支援員が離婚前の相談、ひとり親家庭の相談等に対応しています。給付金は、ひとり親とコロナの関係で生活困窮になった家庭も対象となっているため、コロナの影響による相談もありました。離婚前相談では、「ひとりになってやっていけるのか」やDV、夫からお金がもらえないなどの相談があります。コロナの影響で夫や子どもが家にいるのでなかなか電話しづらく、緊急事態宣言解除後に電話や来所が多くあったと聞いています。
会長	協議事項（2）意見交換に移ります。 「親支援を考える」について、事務局からお願いします。
事務局	（2）意見交換「親支援を考える」について事務局より、資料番号2に基づき説明
会長	課題①について、ご意見をお願いします。
委員	妊産婦に電話してもなかなか電話をとってもらえなかったり、情報提供しても連絡がない方が、保健師の訪問で問題があることが分かり産後ケアにつ

委員	<p>ながったケースがありました。コロナ感染症の影響で気軽に外出できない中、ZOOMやアプリなど、いろいろな人がすぐ手にして情報が受け取れる・発信できる場を作れば良いと思います。</p> <p>外に出かける、地域につながらないなど、引きこもっている方は、愛西市にどれくらいの割合でおられ、どんな問題を抱えているのか把握していますか。</p>
事務局	<p>引きこもっている方の把握はしていませんが、ある資料では、子育て支援拠点を利用する方が右肩上がりが増加している一方、子どもを預けられるような関係のママ友がいる方は減少しているという報告がありました。</p> <p>愛西市においても、出かけたけれど出かけられない、人と接するのが苦手、グループに入れられないなどの事情がある方へのサービスがあると良いと思っています。</p>
委員	<p>コロナ禍で、出かけたり、人と集まることができない状況は、このまましばらく続くとと思われるため、難しいと思います。</p> <p>病院においては、妊婦健診に来た時に、家庭の状況を聞いたりしています。最近では夫のテレワークでストレスを抱えている方も多くおられます。</p> <p>また、対外的には、ラインを用いた相談支援を行っています。友達に追加してもらい、小さなことから大きなものまで対応していくしかないと考えています。</p> <p>愛西市もラインがあるので、それをうまく活用するとよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>健康推進課では、オンライン相談室を準備しており、どのように活用するか検討しています。保健事業で実施しているぴよぴよサロン参加者にオンラインの話をしたところ前向きな返答がありました。オンラインで顔の見える関係があり、自宅で安心して過ごしながらコミュニケーションが図れるような取り組みについて、今後も充実させていきたいと考えています。</p>
委員	<p>オンラインは良いと思います。夫のテレワークによるストレスや、夫が在宅しているため話せないこともあるため、1対1、あるいはニックネームで良いので気軽に参加できるグループを作っていただくと良いのではないのでしょうか。もちろん個人情報には気を付けて、実名でないものもあってもいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>誰でも匿名で登録できるオープンチャットを包括支援センターで持つのはどうでしょうか。市のラインはあまり子育て情報が載っていないので、市のアプリにもっと情報を入れると良いと思います。新しいものというよりは、既存のものの方が登録しやすいと思います。</p> <p>子育て支援センターでは、少数なら安心という人もいるため、予約制にして、部屋を2つ使用し45分交代で運営しています。</p> <p>愛西市には一時預かり事業があり、需要はあると思います。就労や理由関係なく、ちょっと預けたい時に週3回利用できますが、知っている人がほとんどいない。定員の余剰分で実施していると思うので、もう少しアピールすると、祖父母が遠く、夫婦のみで子育てしている方が少し気を休めることが</p>

	<p>できるのではないかと思います。それが親支援になると思います。</p>
委員	<p>今、いろいろなところが閉鎖や縮小で行き場がない方が多いなか、園庭開放を週1回実施していると、数名から10名程度いらっしゃいます。ほぼ8割は同じ顔ぶれですが、「行くところがないから嬉しい」という声を聞いています。遠方にお住まいの方からの問い合わせもありました。幼稚園の場合、エリア関係なく利用できるのがメリットだと思います。</p> <p>来園しても、感染防止のためほとんどの方が外で過ごされます。外でも母と話をするなど十分対応できており、過ごしやすいのがメリットではないかと思っています。</p>
委員	<p>支援センターは、出てこられる人が楽しんでます。アンケートをみても、同じくらいの子どもの様子を見ることができ、講師の教室など満足度は高いので、このまま続けたいと思います。コロナで人数は減っていますが、毎日来てくれる人もおり、一緒に遊ぶことで子育てから解放できると思います。</p> <p>来られない方のデータはないので分かりませんが、臨床心理士の育児相談をリモートでできると良いと話しています。</p>
会長	<p>ママ友に近い方の支援についてご意見ありませんか。</p>
委員	<p>先輩ママの活動が全国的にどのようにされているのでしょうか。例えば子育てお助け隊や主任児童委員が地域で活動されていますが、さらに新たなボランティアを育成する必要があるかどうかというところにあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>子育てお助け隊は母親世代とは年が離れている方が多いです。子育てしている方に対しては、少し上の年齢の子をもつママ友に、少し先の見通しや最近の育児事情を共感してもらって存在になってもらいたいと思っています。</p>
委員	<p>10数年前に自主的な子育てグループができた時代がありました。子育てで辛かった方達が声をかけ合い作っていました。</p> <p>時代が変わり、就業している人が増えてきた中でソーシャルネットワークが必要になってきたため、前の時代とは違う感覚で、ボランティアの育成からやっていかないと難しいのではないのでしょうか。誰か核になる方がライン上に「グループ作ります」など登場してもらえるとよいと思いますので、その核となる方に声かけしていくとよいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>「先輩ママ」と検索すると「ウザイ」と出ます。ボランティアは、カウンセラーではないので有志だけで「傾聴」の役割をするのは難しいと思います。</p> <p>ボランティア育成は難しいのではないのでしょうか。みんなが使える場所を作った方が早いのではないかと思います。</p>
委員	<p>ちょっと先輩のママも悩みや不安がありますし、前はこんな風だったと振り返ってまた前に進むという相互作用の輪ができると良いと思います。それは、オンライン上でもできると思います。</p>
事務局	<p>先輩ママと一緒に子育てしてくれたり、一緒に外出してくれたり、気軽に頼ったり相談できる人達が育っていくと良いと思います。</p>

委員	<p>医療機関は必ずつながっていますし、産院が一緒だったママ友のつながりは大きいので、そこで人材を育ててくれるとありがたいです。</p> <p>母の集まりの中でボランティアを育てていただきたい。お母さん世代、若い世代を含め幅広い年齢層のボランティアを必要な人に派遣するシステムができると良いと思います。</p>
会長	<p>有償ボランティアでないといけないのでしょうか。</p>
委員	<p>小学校高学年、中学校、高校時の支援体制について、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>就学、教育、発達、不登校、引きこもりを数多く対応していますが、9月の3連休以降ものすごく相談が増えました。ネガティブな相談件数が1月くらいから上向きになっています。コロナで母子関係が悪くなったケースや父を含めた関係作りが必要なケースが多くなり、コロナ禍により関係機関との連携の難しさがはっきりしたと思います。</p> <p>母子保健でのつながりは強みであり、それをどう発展させていくとよいか検討する必要があると思います。いざ入学するとまた連携の難しさが出てくる。義務教育が終わると更に深刻になっているケースが増えています。</p> <p>発達障害者支援法では早期支援をうたい、学校教育法ではライフステージにあった支援を続けていこうと改正されました。</p> <p>乳幼児期の支援は療育、医療的な支援が必要で、それぞれの障害にあった支援をすることで強みが発揮されます。</p> <p>学校は教育的な対応になりますが、これが育っていません。学校が相談機能を強めるなどして、教育的な連携を作り直す必要があります。</p> <p>海部地区は学生ボランティアが活動しており、適応指導教室では関係作りにプラスの材料になっています。学童、児童クラブ、フリースクール、適応指導教室などの関係を作り直す必要があります。</p> <p>包括支援センターに見直してほしいところは、センター機能は何かということです。機能強化するには、ソーシャルワーカー力で、繋げる、調整することが必要だと考えますので、そこを強化していただきたい。</p> <p>ネグレクト傾向の家庭が非常に増えています。土日の相談が増え、平日も4時半以降の相談が増えています。これは、貧困と働き方に関係していると思います。</p> <p>相談にもれてしまう方にどう対応していくかに課題があり、教育と福祉の連携機能を強化できる仕組みづくりが必要だと考えます。</p> <p>昨年、保護者に初めて会う時、前任に「次の担当者はこの人だからね」と言われたことを思い出しました。学校の就学相談は、教務主任や教頭が担当することが多く、就学担当という明確さがありません。「次はこの人だから、大丈夫だから」と言ってもらったことで、担当も向き合えないといけないと思いますし、保護者にとっても担当が分かりやすかったため、よい関係性ができました。</p> <p>教育の場での連携で言うと、地域と学校が協働で子どもを育てる、お互い頼りあう関係性が良いと思います。具体的な組織、連携については今後の検討ですが、今コロナで学校には行かずフリースクールに通っている子も出てきており、教育委員会や市も実際行ってどんなことをやっているか見たりし</p>

	<p>て、顔と顔が見える連携の場を増やしていきたいと思います。</p> <p>東郷町にある総合教育センターに相談機能があることを最近知りました。まずは相談し、振り分けるような単純明快で分かりやすいシステムを作り、広げていきたいと思います。</p>
会長	<p>明確な相談窓口を構築していただきたいと思います。</p>
委員	<p>親がこの子をどう育てたいかが大事であり、親の困りごとを聞きながら支援していくことを考えていく必要があります。三者面談などでの話や、時間外にも電話や訪問に対応しています。中学生が多く、高校になるとどこに相談すればいいか分からないので、今回巣立っていく子の親には、困ったらいつでも相談してくださいと話し、内容によっては専門的な機関に橋渡しする予定です。</p> <p>コロナでとても不安が強くなっており、高校に行けずやめてしまった子の親から「どこに相談したらいいか分からない」と相談されたことがありました。</p> <p>障害を持っている子が自ら担任に相談するのは難しいと思います。</p> <p>例えば、保健だよりなどに「困ったら声をかけてください」「窓口はどこでも良い」と書き、ひとりで抱え込むのではなく、誰かにつながればよいと思います。</p> <p>今の学校の問題は、繋ぎ先が分からないということです。あいさいっ子相談室をもっと理解してもらい、関係機関がお互いに情報交換し合い、支援していることが分かる仕組みがあると良いと考えます。半年近く子どもたちと関わる中で、丁寧に関わることで子ども達がこんなに変わるのかと感じています。</p>
委員	<p>事業の取り組みとして、0歳から18歳を対象とした児童発達支援センターについて紹介させていただきます。令和4年度に、発達障害児(者)の中核的支援施設としてスタート予定です。幼児期には保健師や保育士に相談し、学齢期には教員に相談するなど、一貫した相談が難しいことが課題であり、関係機関のより一層の連携が求められています。</p> <p>また、グレーゾーンの児童も気軽に相談できる場となるように考えており、18歳以上や就労についての支援は、専門機関を紹介し、必要に応じて寄り添い支援を継続していきます。</p> <p>現在別々で行っている相談サービス事業を発達支援センター1か所へ集約し中核支援機関となるよう目指していきます。</p> <p>センター設置が、本人や家族に対し、長期的に寄り添い、継続的に支援できる場になると考えています。</p>
委員	<p>園には、就学児健診などの問い合わせがありますが、市町村によって対応に温度差があります。私学は柔軟に動いてくれます。行政区単位関係なく、園担当や地区担当があると顔見知りになり、施設のことをよく分かっている方がいると、連携がとりやすくなるため、窓口が一本化されると良いのではないかと思います。市町村関係なく施設担当がいると良いと思います。</p>
事務局	<p>あいさいっ子相談室が繋ぎ手になりますので、ご連絡いただければと思います。</p>

委員	<p>愛西市の母子保健、子育て支援は、管内の中でもより一層頑張っていると感じています。</p> <p>以前から、母子保健と学校との繋ぎの難しさを感じていますが、こういう議論ができていて、自分が前進していると感じます。ネットワークや体制整備という言葉よりも、顔が見えているところでひとりひとりが繋がるのが大事で、その中で子どもたちが救われていきます。それに周りの人達が刺激され、支援する側の人が増えてくるかもしれません。</p> <p>家の中で困っている人も相談しようという勇気が出てくるのではないかと思います。うまくいっている事例をいかに見せていくかをツールや情報誌などで効果的に示していくことが大切で、それに対して私たちも勉強しなければいけないと思います。</p>
会長	<p>学校教育課が参加していることは前進ではありますが、さらに課題が提示されたので頑張っていたきたいと思います。</p>
委員	<p>愛西市の子育て世代包括支援センターは、平成29年から始まり5年目になります。立ち上げが早かった分、組織がしっかりしていますし、頑張っていると思います。</p> <p>教育の場の方がこの会議に出ていただいております、発足当初から組織づくりができていところが愛西市の強みであると思います。</p>
会長	<p>乳幼児期の連携が充実し、学童期の議論が深まってきたという印象があります。課題を話し合える場がないという機関が多い中で、このように話し合えることに希望が持てると思います。</p> <p>5年の中で発展し、まだまだ期待が持てると思います。</p> <p>発達支援センターが立ち上がることで、保健と医療と教育の拠点ができることも心強いと感じました。</p>
事務局	<p>その他といたしまして、委員の皆様につきましては、今年の5月31日が任期となっております。2年間大変お世話になりました。</p> <p>次回の会議開催は、令和3年8月頃を予定しております。引き続き委員をお願いする方もあるかと思いますが、その節はよろしく申し上げます。</p> <p>事務局からは以上です。</p>
会長	<p>皆様に支えられ、2年間会長を務めることができありがとうございました。</p> <p>本日も活発なご意見をいただき事務局もさらに前進していただけたと思います。事務局の活動を期待しています。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>これにて、第2回愛西市子育て世代包括支援センター運営協議会を閉じさせていただきます。</p> <p>委員の皆様ありがとうございました。</p>